



新潟県の市町村まとめ。

現在、新潟県の人口は約217万人。市町村数は、2000年に112ありましたが、平成の大合併により、現在は30市町村となっています。

人口が一番多いのが新潟市(約78万人)。長岡市、上越市、三条市と続き、28位が刈羽村、29位が出雲崎町、一番少ないのが粟島浦村(約340人)となっています。

面積が一番大きいのは村上市(1174km²)で、そのあと上越市、阿賀町、魚沼市と続き、28位が刈羽村、29位が弥彦村、一番小さいのは、やはり粟島浦村(10km²)となっています。

ちなみに、全国で比較すると、粟島浦村の人口は、1741市町村の中で、1736位。下から6番目という結果となっています。



「Eco列車でいこう！」～第151回～ 復興の街で。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです!) 

2022年3月12日(土)。岩手県釜石市にやってきた。

「三陸鉄道鶴住居(うのすまい)」駅前にある「釜石祈りのパーク」では、多くの献花が行われていた。あの津波の日、地元の小中学生は躊躇なく山の上に逃げた。570人全員が無事だったこの出来事は「釜石の奇跡」と呼ばれた。その一方、まちなかにある2階建ての「鶴住居防災センター」へ逃げた人のうち、69人が犠牲となった。「防災センター」という建物の名前のために人々が避難し、そして津波に飲み込まれた。これは「釜石の悲劇」と呼ばれている。

さて、人口わずか3万人のこの街だが、「釜石シーウェイブス」というラグビーチームがある。1978年から日本選手権7連覇を達成した「新日鉄釜石」が前身の、伝統のあるチームだ。

震災のあと、小中学校の跡地にラグビースタジアムが建設された。まるで映画「フィールドオブドリームス」のような、自然に囲まれたスタジアムだ。この日の試合は、7-55の完敗だったが、観客席では大漁旗が振られ、惜しみない声援が送られていた。フードゾーンで、おばあちゃん達から鮮度バツグンの肉厚なホタテ焼を購入し、潮の香を感じながらラグビーを観戦した。

夜が更けて、漁港近くにあるイタリアンレストランへ。津波被害に遭い、キッチンカーから再出発し、現在の場所で開業したという。新鮮な魚介類と春野菜がふんだんに使われ、おいしい料理を満喫し、店員さんとの話が弾んだ。

今回出会った釜石の人たちは皆、笑顔が素敵だった。「苦しい日々を味わった人々だからこそ、平穏に暮らすことの幸せを感じているのだなあ。」と思った。



自然の中にある釜石鶴住居復興スタジアム



殻付の焼ほたてをおばあちゃん達が売る



春野菜の前菜と海鮮のアヒージョ